

今週（2月27日から3月3日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、月末要因で無担保コールO/N加重平均レートが低下する場面も見られたものの、地銀を中心に調達意欲が強く、月末を過ぎた後は次第にレートが上昇していった。2日に税・保険料揚げがあったことで、日銀当座預金残高は320兆円台後半での推移となった。

調達レートは二極化の展開となり、週初の27日は、地銀業態が▲0.02%近辺の調達希望で高止まりする一方、都銀・信託業態の調達意欲は減退基調となっており、▲0.05%近辺での出会いとなった。月末の28日には月末要因で取引を見送る先も見られたため、加重平均レートは低下した。1日と2日は財政融資資金の回収や税・保険料揚げで資金不足日となったため、オファーが少ない中、地銀業態を中心に調達意欲は旺盛で、▲0.015%で取り残りの展開となった。その一方で都銀・信託業態の調達意欲は引き続き弱く、▲0.06%近辺の出会いが中心となった。週末の3日は全般的に調達意欲が強く、証券業態で取り上げりの動きが見られ、都銀・信託業態でも一部に取り上げる動きが見られた。ターム物は月明け以降に1～2W物の出会いが複数見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは2日に2W物8,000億円と3M物5,000億円がオファーされ、それぞれ1,465億円（期落ち額1,516億円）、170億円（期落ち額100億円）と札割れの結果となった。

●レポ市場

今週のGC O/Nは、27日～1日にかけて、投資家が資金調達ニーズに乏しく、オファーが出難い中、▲0.10～▲0.09%程度での出会いが中心となった。2日のS/Nは短国3Mの発行日の取引ではあったが、引続きオファーが出難い状況は変わらず、出会いの中心は▲0.12～▲0.10%程度まで低下した。短国買入オペがオファーされた3日のS/Nは、さらにレートが低下し、▲0.21～▲0.15%程度を中心に取引された。

SCIは個別銘柄では5y126～130、10y343～345、30y49～52等のカレント近辺に引き合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週初から動意に乏しく閑散なマーケットとなる中、2日に3M物の入札が実施された。海外からの一定のコールニーズに加え、WI取引において▲0.33～▲0.32%の強めの出会いが見られたこともあってか、平均落札利回▲0.3466%、按分落札利回▲0.3326%と事前予想より強めの結果となった。セカンダリーではショートカバーと見られる買いから、一時的に▲0.50%の出会いも見られたものの、買い一巡後の気配は入札水準まで上昇した。

短国買入オペは3日に2,500億円で実施された。マーケット全般が品薄の中、事前予想の下限でのオファー額となり、平均利回較差+0.020%、按分利回較差▲0.014%と需給を反映した堅調な結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、月初ということもあり、鉄鋼・石油・食料品業態等から大型の発行が見られたものの、週間発行総額は4,900億円程度にとどまった。a-1格以上の発行レートは、期内償還物は0%近辺の落ち着いた水準で推移した。一方で期越償還物は、引続き案件が少なく、投資家やディーラーの積極的な買いからマイナスでの決着が散見された。2月末の発行残高は約16兆円と、期落ち額が少ない中、3月末までの発行が増加したため、昨年2月以来の16兆円台を回復した。前年比では約5,500億円減少しているものの、事業法人の発行残高は1兆3,000億円以上増加しており、低金利のCPを有効活用する事業法人の姿勢は鮮明になっている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/27 (月)	19,107.47	0.046	112.15	△ 0.039	△ 0.105	3,278,400
2/28 (火)	19,118.99	0.050	112.55	△ 0.048	△ 0.091	3,296,700
3/1 (水)	19,393.54	0.060	113.00	△ 0.046	△ 0.091	3,294,700
3/2 (木)	19,564.80	0.080	114.00	△ 0.042	△ 0.101	3,246,500
3/3 (金)	19,469.17	0.070	114.25	△ 0.037	△ 0.126	3,250,200

来週（3月6日から3月10日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/6 (月)					1月の米製造業新規受注・出荷・在庫
3/7 (火)	2月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50)	30Y 8,000億円 3/21発行			1月の米貿易収支 1月の米消費者信用残高 10-12月期のユーロ圏GDP確報値
3/8 (水)	10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB6M 32,000億円 3/10発行			1月の米卸売売上高
3/9 (木)	2月のマネーストック(日銀 8:50) 1月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	TB3M 44,000億円 3/13発行	5Y 24,000億円 3/21発行		ECB定例理事会(金融政策発表)
3/10 (金)	1-3月期の法人企業景気予測調査季報(内閣府・財務省共管 8:50) 2月の企業物価指数(日銀 8:50) 1月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	エネルギー借入 3,000億円 3/21借入			2月の米雇用統計 2月の米財政収支

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
3/6 (月)	1,000	▲ 4,800	▲ 3,800	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,600 ▲ 600 1,100	1,600 300	800	▲ 3,000	TB3M発行▲44000償還40900
3/7 (火)	2,000	3,000	5,000	国債買入 短国買入		7,500 2,500	10,000	15,000	交付税借入▲10500期日10500
3/8 (水)	2,000	5,000	7,000				0	7,000	
3/9 (木)	0	4,000	4,000				0	4,000	交付税借入▲10500期日10500
3/10 (金)	0	▲ 5,000	▲ 5,000	CP買入		5,000	5,000	0	TB6M発行▲35000償還24900 物価連動10Y償還1000
週間合計	5,000	2,200	7,200	—	▲ 1,100	16,900	15,800	23,000	

3/6は日銀予想、3/7以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期間の後半に入ること、無担保コールO/N加重平均レートは上昇傾向となることが見込まれる。

短国市場は、8日に6M物、9日に3M物の入札が実施予定となっている。期末越えのニーズも見込まれるものの、短国買入オペの買入額が減額傾向となっている中、慎重姿勢が強まればレートが上昇することも考えられる。

CP市場は7日にC P等買入オペが5,000億円で実施予定となっている。前回オペ比で2,000億円の増額となることや、期越の案件が強めの決着となっていることもあり、落札結果が注目される。

主要なイベントとしては8日の10-12月期GDP速報値、9日のECB定例理事会、10日の2月の米雇用統計などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入